

【2】 合同体育

(1) 児童の運動にかかわる実態把握から

今年度小学部の実態調査として、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、からだの輪郭表、MEPA等を実施し、加えて運動能力テストの結果から運動に関わるものとして次の様な結果が得られた。

- ① 小学部児童の運動面の発達段階はおよそ4才であるが、いちばん低い子から高い子までは3才位のひらきがある。
- ② 筋力、持久力はクロスインデックスによる発達相応の力を示しているが、身体意識は低い。
- ③ 筋力、持久力、柔軟性に比べて調整力（スキップ、片足立ち等）が劣っている。

(2) 合同体育のねらい

小学部の研究テーマとかかわりながら次の様なことをねらう。

- ① 身体的発達を図る
 - ・調整力をつけるため、様々な運動を経験させる。
- ② 精神的発達を図る
 - ・意志的発達、情緒的発達、及びその安定を図る。
 - ・自主性、忍耐力、積極性を養う。
 - ・心の開放を図り、緊張を和らげる。
- ③ 社会性の発達を図る
 - ・みんなで応援・協力をしたり、役割・きまりを守ることができるようにする。

(3) 内容の組み立てにかかわること

児童の実態を考慮し、次の様な内容を取り入れる。

- ① 小学部の児童の発達段階に応じ、集団活動を行いながら内容に幅を持たせ、できるだけ能力に応じた運動をさせる。
- ② 移動、安定性を必要とする運動、持久的運動など全身を使う運動を多く取り入れる。
- ③ 身体像、身体図式を育てる運動を取り入れる。
- ④ いろいろな運動技能が刺激されるように、いくつかの運動を組合わせて行う。
- ⑤ 団体種目を毎時間行う。
- ⑥ みたて・つもりで行う模倣、教師の動きを見て行う模倣を多く取り入れる。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、次の様な点に留意しながら指導を行うようにした。

- ① 指導にあたる全教官が児童の実態を把握しておく。
- ② 当日の調子に合わせて弾力を持たせて指導する。
- ③ 日常の遊びに発展するように指導する。

(5) 指導計画

	目標	体操	リレー	中心となる内容	
4	瞬発力 持久力 柔軟性	どんぐり体操 ↓	大玉ころがし 平均台リレー ↓	○かけっこ ・短距離走 ・長距離走 ○平均台リレー ・平均台をくぐる ・床をはう	
5	柔軟性 平衡性 協応性			○体力テスト ・握力 ・垂直跳び	・立体体前屈 ・肺活量
6				○マット遊び ・前回りをする ・キャタピラ ・横転	・セフティマットで自由遊びをする
7	水に慣れ親しむ	ラジオ体操 ↓	—	○プール遊び ・水の中を歩く ・わに歩きをする	
9	瞬発力 協応性		—	○プール遊び ・顔つけ ・パタ足	○ビート板につかまっのバタ足 ・水中で目を開ける
10	平衡性 敏捷性 握力	どんぐり体操 ↓	おいもさん運びリレー ↓	○すずをならそう ・跳び箱を越す ・平均台をわたる	・ろくぼくに登る ・ジグザグ走
11	協応性			○ボール遊び ・投げる ・玉入れ	○ダンス ・魔女のタンゴ ・ジェンカ
12	平衡性 柔軟性		自動車リレー ↓	○マット遊び ・連続前回り ・後ろ回り	○ボール遊び ・ボールを持って走る ・ボールを転がす ・ボールを的に向かって転がす
1	協応性			○雪遊び ・雪だるま作り ・雪合戦	
2	筋持久力 協応性			○鬼ごっこ ・一人おに ・手つなぎおに	○すもう ・おしくらまんじゅう ・すもう大会
3	筋持久力 協応性			○ダンス ・魔女のタンゴ ・ジェンカ	○すもう ・おしくらまんじゅう ・すもう大会

(6) 考察

上記のような計画に基づき指導を行ってきた結果、子供達の動きは良くなり、また集団行動もしっかりとできるようになってきた。しかし子供達の運動能力の差がかなり大きいと思われるため、能力の高い子供にはもっと大きな課題を与え、能力の低い子供にはもっと小さな課題を与えなければならないという相反する課題が生じてきている。前述のことを解決するための方法として①指導内容の精選、②指導内容の系統性、③個別の配慮、評価の方法等があげられる。この方法を実行するにあたっては、日常生活におけるあらゆる場面での児童の実態を的確にとらえて障害差、能力差を考慮した指導計画をたて、日常場面においても指導していくことが必要である。